

# 宇部市総合計画審議会生活環境分科会（第2回）議事録 【要旨】

日 時 平成21年1月29日（木）15:15～17:00

場 所 市役所2階 第3会議室

出席者（委員）藤重清美 篠田佳代子 脇和也 北野洋子  
（事務局）新総合計画策定室長 廣中昭久 総合政策課主任 西田一雄  
（専門部会）都市開発部次長 内田英明 総務部次長 阿部和生  
欠席者（委員）松崎益徳

## 1 生活環境分野における現状把握及び今後の方向性について

### <コンパクトシティについて>

（委員） 今後、人口が急激に減少することで、税収が減り公共投資の増えない中、投資効率の良いコンパクトシティを進める必要がある。国もその方向で施策を進めているし、先進地の事例もある。宇部の地域性と相容れるかどうかはわからないが、高齢化と少子化の進展から公共交通の問題も含めて「人にやさしいまちづくり」が重要になってくると思われる。だからといって、中心市街地のみについて議論するのは避けたい。なぜなら厚南、岐波などは大型店舗もあるし、病院もある。その地域独自のみでの生活が成り立っている。そうした地域をサテライトとしてコアである中心市街地とどう有機的に結び付けて行くか考えなければならない。中心市街地住民だけのための答申にしたくない。財政的に苦しくもあることから、中心市街地活性化について既存の施設を活用するとともに、地域拠点もうまく生かさなければならない。コンパクトシティを基調とした「まちづくりの目標」として計画に掲げるならば、「人にやさしい、サステナブルなまちづくり」はどうか。

（専門部会） 中心市街地の空洞化への対策として、中心市街地活性化基本計画を定め、取り組んできたが、当初のものと方針が変わりつつあり、商業重視から居住促進へと変わってきている。しかしながら、誰も郊外に自分の家を持ちたがり、都市計画どおりにまちづくりが進んでいないのが現状である。都市計画を進める上で線引き制度があり、これに沿ったまちづくりが理想ではあるものの、皆これまでの生活があるし、合併してきた経緯もあるので、線引きどおりに移ってもらうのは容易なことではない。

### <公共交通のあり方について>

（専門部会） 公共交通については、現在、あり方を根本的に見直すための計画づくりを進めており、その中で、国道2号以北の中山間地域においては児童・生徒や高齢者をターゲットとしたデマンド交通を中心とする生活交通体系の充実を、また、国道2号以南の市街地及び郊外地域においては全体を4ブロックに分け、乗り継ぎの利便性向上を目指し、まちなかへのアクセス向上についても検討している。

- (事務局) バスや自転車、徒歩による中心市街地への人の流れを誘導することも大事だが、この車社会では、中心市街地の活性化にこそ駐車場の整備が必要であるという意見もあり、双方の相反する意見の調整に結論を出すには困難な状況である。また、郊外店に無料駐車場がある現在では、誰しもそこへ行く。
- (委員) 公共交通と駐車場のいずれを優先させるかについては政治的な判断が必要であるとともに、政策誘導が重要ではないか。フライブルク市では、中心市街地に向かうほど駐車料金高く、公共交通は長く乗るほど割安になっている。
- (委員) 中心市街地への車の乗り入れ等についての規制をかけるべきではないか。利用者が増えないと公共交通の便数も増えない。便数が増えなければ、利用者も増えないという悪循環に陥っている。規制を作らないと公共交通を利用するメリットや中心市街地に住むメリットが生まれない。利便性（道路づくり）重視のまちづくりを進めるのか、環境重視のまちづくりを進めるのか。
- (事務局) 市民アンケートの結果を見ても幹線道路の整備には満足しているという意見が多い。道路の新規整備に要する費用を他の用途に充て、今後のまちづくりは量より質を重視するべきかもしれない。

#### <市民の自立・市民との協働について>

- (委員) 市の環境部長から昨年1年間でゴミの焼却用燃料費が一千万円かかったと聞いた。公共交通の利用についても乗っている人が少ない。今後税収が減っていくなかで、市民一人一人の責任が問われるのではないか。行政に頼るばかりではなく、市民ができることは市民が自ら行い、市財政の収入と支出のバランスを図るべきだ。「市民の責任」を計画内の文章に滲ませたい。
- ゴミの分別についても、自治会の協力を得たおかげでうまくいき、今では常識のようになった。最初は無理と思ったが、市民意識は変えられる。市民意識を大きく変えなければならない。財政状況も県内市町で見ると良いが類似団体と比較すれば悪い。このことを市民が知らない。
- (事務局) 市財政の中期見通しについては、次回審議会で担当部署に説明させる。
- 市民との協働については、条例もできたが、具体化がまだ進捗していない状況である。市民と行政の協働の前提条件として、行政からの自発的な情報発信による市民との情報の共有が重要であると思っている。

#### <緑と彫刻について>

- (委員) 環境首都を目指すまちとして、公共交通の利用促進とともに緑化を考えなければならない。宇部のイメージとして、工業地帯、宇部興産というのが挙がってくる。このイメージを変えなければならない。大学生の提案にもあった来年100周年を迎える「常盤通り」の緑化を進めるのはどうか。
- (専門部会) 常盤通りの樹木は、植樹後50～60年経ち寿命が近づいているので、今後の方策を現在検討中であるが、中心市街地も高齢化が進み、地域で世話ができないので花壇等を作らないよう要望されたことがあることも考慮しなければならない。

- (委員) 「緑と花を育て隊」に参加しているが、登録人数が100人程度いるにも拘らず、いつも来るのは5～6人。もっと広報等で取り上げてもらいたい。ボランティア活動の中でも花づくりは集まりやすいと思う。もっと呼びかけを。
- (事務局) ボランティア活動はきっかけをつくってあげる必要がある。
- (委員) 宇部のイメージとして、これまでずっと設置し続けてきた彫刻への認識が低かったのがショック。だからといってUBE ビエンナーレを止めるではなく、見せ方について試行錯誤を重ね、形を変えていけばよいと思う。例えば、まちなかに拡散させるのではなく、1箇所を集めるか、歩いて見られるようなストーリー性のある周遊路を作るとか。
- (専門部会) 個々の彫刻が大きいし、作家の意向もあるので難しい面もあるが。
- (委員) 特に若い人は彫刻に興味が無い。子どもにも彫刻の魅力を教える努力をしなければならぬのではないか。宇部から著名な彫刻家が出てこないのはおかしい。
- (事務局) 彫刻に関しては、教育文化分科会が所管することになっているが、生活環境分科会の所管に変更することは可能。

#### <その他について>

- (委員) 常盤通りは常盤公園に続く道として命名された。常盤公園の活用も考えた。山口宇部空港に降り立った観光客も常盤公園を素通りして、萩などに向かう。観光客を呼び寄せる方策を考えるべきでは。
- (事務局) 宇部日報が昨年実施した市民アンケートでは、観光資源としてよりも市民のための都市公園としての活用要望が多かった。今後、宇部市は観光都市を目指すのか否か議論を要する。人にやさしい、住み良いまちを目指すことにより、結果として人も集まるという考え方もある。まちづくりについては、量的なものから質的な向上に方向を転換することも考えるべきだと思う。
- (委員) これまでの機能性重視のまちづくりから、環境や景観を重視したまちづくりにシフトすべきである。特に、緑化により宇部市といえば「緑」というイメージを強く押し出したい。また、これまで宇部市の環境対策は静脈系のことばかりだったが、これからは動脈系の環境産業も促進しないとイケない。

※次回開催 平成21年2月26日(木) 15:15～ 宇部市総合福祉会館